



# EURO Indicators

定例経済指標レポート

## ユーロ圏 製造業PMI (10月速報値)

発表日：2007年10月24日 (水)

～製造業では2ヶ月連続の大幅な低下も、サービス業は改善～

第一生命経済研究所 経済調査部  
副主任エコノミスト 橋本 択摩  
(03-5221-4526)

### ユーロ圏製造業PMI

		総合								ドイツ	フランス	イタリア
		生産	新規受注	雇用	配達時間	在庫	投入価格	産出価格				
2006	7	57.4	59.4	59.1	52.3	37.4	49.7	73.5	57.3	58.9	57.2	56.1
	8	56.6	58.4	57.7	51.9	39.1	51.2	68.7	55.2	58.3	56.2	54.8
	9	56.6	58.2	58.4	52.3	39.6	50.8	69.3	56.0	58.4	56.0	54.8
	10	57.0	58.6	58.9	52.2	39.6	51.7	68.1	55.3	58.2	56.3	56.2
	11	56.6	57.8	58.4	52.8	40.1	50.5	64.0	55.0	58.3	56.5	54.8
	12	56.5	58.0	57.8	52.7	39.9	51.3	62.9	55.9	59.4	54.2	55.0
2007	1	55.5	57.0	56.5	53.2	42.1	50.0	66.5	58.4	58.5	52.4	53.5
	2	55.6	58.0	56.8	52.9	43.0	49.3	64.2	57.5	57.2	53.4	54.2
	3	55.4	57.5	56.4	52.9	42.5	49.2	66.1	57.0	56.9	53.8	53.8
	4	55.4	56.9	55.8	53.3	41.6	50.2	65.6	54.7	57.0	53.9	53.9
	5	55.0	56.1	55.4	53.3	41.5	49.2	64.3	54.5	56.1	54.3	55.0
	6	55.6	56.8	56.2	53.7	41.5	49.8	66.0	54.3	57.3	53.8	54.0
	7	54.9	56.0	55.3	53.5	42.2	49.3	67.1	54.5	56.8	53.3	53.3
	8	54.3	56.1	54.8	52.5	43.3	48.6	62.3	53.6	56.0	52.5	53.6
	9	53.2	55.5	52.2	52.5	44.1	47.7	59.6	53.4	54.9	50.5	52.4
	10	51.5	52.5	50.6	51.1	45.5	47.7	58.9	53.1	-	-	-

(出所) Reuters Ecowin

10月のユーロ圏製造業PMI(速報値)は、前月に引き続き大幅に低下し51.5となった。水準としては05年8月以来となり、企業活動の拡大と縮小を分ける50も視野に入ってきた。

内訳をみると、生産が前月から3ポイント低下の52.5、新規受注が1.6ポイント低下の50.6となり、全体を大きく押し下げる要因となった。どちらも前月に続く大幅な低下であり、2ヶ月前対比では生産は3.6ポイント、新規受注については4.2ポイントも低下し、50割れも目前となっている。国別結果など詳細については確定値(11月2日発表)まで待たねばならないが、金融市場の混乱による銀行の貸出基準の厳格化を受けて設備投資行動が慎重になっている可能性、またはユーロ高を背景とした海外需要の鈍化が今回の結果の背景にあると推測される。

一方、サービス業については、55.6と急落した前月(54.2)から上昇した。もっとも今回のサービス業の改善は、金融業で先行き不透明感が高まって急落した前月の反動もあろう。特に、事業見通しが60と高水準を維持していることから、金融業を含めたサービス業にとって金融市場の混乱の影響は限定的となっている可能性がある。製造業の大幅低下にも関わらず、サービス業の改善により、2つの指数を合わせた合成PMIは

### ユーロ圏サービス業PMI

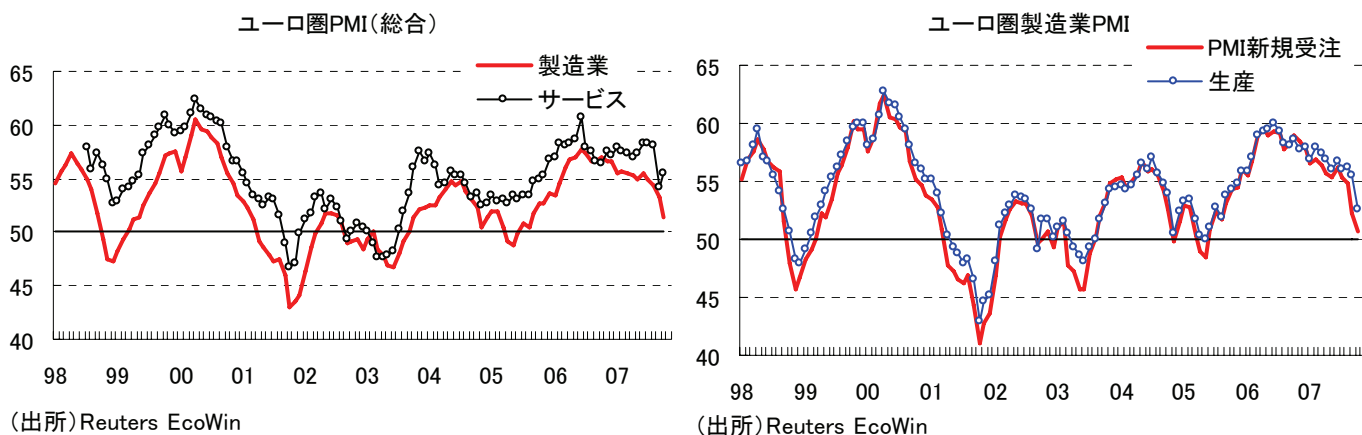
		総合							
		現行事業	新規事業	事業見通し	雇用状況	請求価格	購入価格		
2006	7	57.9	54.6	57.5	65.0	54.0	53.7	60.2	
	8	57.4	53.4	56.8	63.9	53.0	53.6	59.9	
	9	56.7	53.2	56.5	63.6	53.1	53.7	57.9	
	10	56.5	51.2	56.3	63.0	53.2	53.0	56.9	
	11	57.6	52.9	57.6	64.1	54.2	51.7	55.6	
	12	57.2	50.6	56.9	65.3	53.7	52.7	57.5	
2007	1	57.9	50.8	57.9	67.8	54.3	54.0	60.3	
	2	57.5	50.8	56.2	68.0	54.0	53.2	59.7	
	3	57.4	52.6	57.0	64.4	54.6	53.8	58.9	
	4	57.0	53.0	57.1	67.7	54.1	54.4	59.3	
	5	57.3	53.4	57.5	66.4	55.6	53.1	58.4	
	6	58.3	54.2	58.7	64.4	55.8	54.1	59.2	
	7	58.3	53.7	59.7	64.1	56.4	53.4	59.8	
	8	58.0	52.7	58.5	60.2	55.7	53.6	58.7	
	9	54.2	51.5	54.2	61.1	55.0	53.4	59.1	
	10	55.6	51.9	55.3	60.9	55.2	52.0	60.2	

(出所) Reuters Ecowin

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

54.5 と前月の 54.7 から小幅低下にとどまった。10 月のユーロ圏経済は、総じて堅調さを保っているとは判断できる。

もっとも懸念材料としてはやはり製造業の生産・投資活動が挙げられよう。先ほど述べたとおり、金融市場の混乱の実体経済への影響は、銀行貸出の引き締め、海外需要の鈍化等を通じて、製造業において顕在化しつつある。さらに、欧州委員会が 10 月 4 日に公表した四半期報告で指摘しているように、ユーロ圏の景気サイクルは成熟化し、特に製造業の生産活動については既にピークを過ぎた可能性もある。先行きについては、新興国向けの受注は引き続き高い伸びが期待できるものの、世界経済の先行き不透明感の高まりを受けてやや鈍化基調になると見込まれる。



以上